



知事道政執行方針 提出案件に関する説明要旨

令和5年（2023年）6月

北 海 道

■ 知事道政執行方針

I はじめに

II 道政に臨む基本姿勢

III 政策展開の基本方向

- 1 暮らしを守る
- 2 未来を創る
- 3 地域と進める

IV むすび

■ 提出案件に関する説明要旨

■ 知事道政執行方針

I はじめに

私は、先の知事選挙において、道民の皆様のご支持をいただき、引き続き、北海道知事として、道政を担わせていただくこととなりました。

道民の皆様、道議会議員の皆様とともに、潜在力と可能性に満ちた北海道の未来づくりに、再び取り組むことができる、このことを大変光栄に思うとともに、その職責の重さに、改めて身が引き締まる思いであります。

私は、4年前に初めて知事に就任して以来、これまで、道民の皆様の命と健康、暮らしを守ることを最優先に、活力あふれる北海道の実現に向けて取り組んでまいりました。

本道を取り巻く情勢が目まぐるしく変化し、粘り強く進めてきた取組も急速に動き始める中、私としては、北海道にとって何が最善かという視点に立ち、直面する様々な課題と向き合いながら、引き続き、全身全霊で取り組んでいく決意であります。

道民の皆様への負託を受けた議員の皆様とともに、北海道の確かな未来に向けて、力を合わせてまいりたいと考えております。

皆様のご協力とご助言を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

Ⅱ 道政に臨む基本姿勢

<本道を取り巻く環境の変化>

本道、そして我が国は、今、大きな転換期を迎えています。

3年を超える新型コロナウイルス感染症との闘いは、人々の意識の変化や行動の変容を起こしました。

国際情勢は大きく変化し、エネルギーや食料の安定供給に対する懸念が身近なものとなり、地球温暖化への対応も喫緊の課題となっているほか、人口減少をはじめ地域の課題も多様化しております。

一方、ビッグデータや人工知能といったデジタル技術の進展は、時間や場所の概念に変革をもたらしつつあります。

我が国は、新たな価値観と技術が創りだす社会、そして、これまでに経験したことのない社会へと歩みを進めているのです。

私たちは、こうした刻一刻と変化する情勢をしっかりと見極めながら、新しい時代に対応し、そして発展し続けることのできる北海道づくりに取り組んでいかなければなりません。

<本道が日本の発展をけん引>

こうした未来社会を見据えたとき、私は、「エネルギー」「デジタル」「食」の3つが重要になると考えています。

いずれも、今の私たちが社会経済活動を維持していく上で不可欠なものであり、今後、社会が大きく変化する中であっても、持続的な発展をけん引していく原動力になります。

そして、そのいずれもが、私たちのふるさと北海道が、大きな役割を果たすことができる分野となるのです。

本道には、豊富な再生可能エネルギーをはじめ、我が国最大の供給力を有する農林水産業、世界に誇る自然や文化を^い活かした魅力的で質の高い観光資源といった大きなポテンシャルがあります。

また、この北海道で開発が進められる次世代半導体は、医療、福祉、交通、農林水産業など、幅広い分野にわたり技術革新が進む新しい社会において、中心的な役割を果たす基盤となります。

北海道が今後の日本の発展をけん引する、そういう時代が到来しているのです。

<本道のポテンシャルの発揮>

4月に開催されたG7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合には世界中の関心が集まり、北海道の取組を国内外に広く発信することができました。

洋上風力発電も「有望な区域」として道内の5区域が選定され、発電事業の実現に向けた新たな一歩を踏み出しました。

次世代半導体の製造拠点の整備に向けても、今年度の事業計画が政府から承認され、追加支援が決定されました。

さらに、データセンターをはじめとするデジタルインフラの整備についても、政府において、北海道を中核拠点として位置づける方向性が示されました。

道民の皆様の生活や事業者の方々の経営環境が、引き続き厳しい状況にある中、医療や福祉をはじめ、道民の皆様の命と健康、暮らしを守る、このことを最優先に取り組みながら、日本、そして世界へと視野を大きく広げ、今こそ、北海道のポテンシャルを最大限に発揮し、果敢に挑戦していかねばなりません。

私自ら先頭に立ち、北海道の価値を押し上げ、未来へと続く確かな道を切り拓いてまいります。

<道内の英知の結集>

北海道のポテンシャル、そしてその価値の源泉は、179の市町村にあります。

私たちを取り巻く環境が複雑化する困難な時代だからこそ、本道の多様性という強みを活かし、市町村をはじめ、多くの関係者の英知を結集していかなければなりません。

本道には、先人より技術や情熱などを受け継ぎ、発展させてきた方々があります。

将来への希望を胸に、学び、新たな挑戦を続けている方々があります。

本道に思いを寄せ、応援していただいている方々があります。

これまで北海道の発展を支え、これからの北海道を担う方々と思いを共有し、ともに進んでいくことにより、本道が有する大きな力を発揮することができる、そう確信しています。

全道が一丸となった取組を進めていくため、私は、地域の方々と積極的な対話を重ね、皆様の声を受け止めながら、ともに考え、行動してまいります。

Ⅲ 政策展開の基本方向

私は、こうした基本的な考え方に立ち、北海道の確かな未来に向け、「暮らしを守る」「未来を創る」「地域と進める」という三つの視点で、政策を展開してまいります。

1 暮らしを守る

一つ目は、「暮らしを守る」です。

<やさしく温かい社会づくり>

価格高騰の影響が長期化する中、道民の皆様の生活や事業者の方々の経営環境は、厳しい状況が続くことが懸念されています。

何より、暮らしの安心の確保を最優先としながら、先の臨時会で議決いただいた追加の経済対策の着実な執行はもとより、引き続き、社会経済情勢の変化に機動的に対応していきます。

これからの北海道を見据えたとき、将来を担う世代、とりわけ子どもたちを社会全体で支えていくことが重要です。

国や市町村など、あらゆる皆様と連携を図りながら、「子ども応援社会」の実現に向けて、関連施策を総動員し、経済負担の軽減やサポート体制の充実などに取り組みます。

妊婦や子ども連れの方を優先するファスト・トラックや、子育て世帯の道営住宅の優先入居などの取組を道が率先して進めます。

また、誰もが安心して医療を受けられるよう地域医療の充実を図るとともに、高齢者の健康づくりやケアラー支援などに取り組みます。

障がいのある方などに対する自立支援、性の多様性に関する知識の普及など、誰もが暮らしやすい環境づくりを進め、犯罪や交通事故の防止をはじめ、安全・安心な日常の確保に取り組みます。

<命と生活を守る基盤づくり>

頻発化、激甚化する自然災害や、新たな感染症などへの備えも強化します。

日本海溝・千島海溝周辺の海溝型地震に対しては、市町村が整備する避難施設等の財政負担をできる限り軽減し、防災教育といったソフト面とともに、地域と連携した防災対策に取り組めます。また、北海道胆振東部地震からの着実な復興を進めます。

新型コロナウイルス感染症への対応に万全を期しながら、新たな感染症にも機動的な対応ができるよう、司令塔機能や、検査・研究機関の強化といった体制の整備を図ります。

地域交通や鉄道貨物ネットワークの維持・確保に向けて関係の皆様と協議・検討を進め、北海道新幹線札幌延伸の効果の最大化、航空路線や道路網の充実など、命や暮らし、産業を支える交通・物流基盤の強化に向けた取組を進めます。

<持続可能な一次産業づくり>

食料安全保障への関心が高まる中、本道の農林水産業が果たす役割はますます重要となっています。

力強い農業・農村の確立に向けて、生産基盤の整備をはじめ、輸入依存穀物や自給飼料の増産などに取り組み、生産現場へのスマート農業の導入を加速し、農作物の高品質化、新たな品種や栽培技術の研究開発を推進します。

漁業生産の安定化に向けては、サケマス類やウニの養殖試験などを通じて栽培漁業の拡大を図り、スマート水産業による収益性の向上や、漁港・漁場の計画的な施設の整備などに取り組みます。

9月に開催される全国豊かな海づくり大会を契機に、海の恵みを守り、次の世代につなげる意識を醸成し、道産水産物の魅力を広く発信していきます。

スマート林業の実装化を加速し、森林整備の更なる省力化や、木材の安定供給を図ります。

「HOKKAIDO WOOD」ブランドの強化により、道産建築材や木材製品の利用拡大を進め、北森カレッジでの人材育成や優良企業の創出などに取り組みます。

高病原性鳥インフルエンザ発生時の迅速な防疫措置をはじめ、赤潮の発生メカニズムの解明や被害軽減など、様々なリスク対策も強化していきます。

2 未来を創る

二つ目は、「未来を創る」の視点です。

<成長をけん引する産業づくり>

デジタル化は、様々な分野でイノベーションをもたらし、地球温暖化やエネルギー問題など、地域が直面する課題の解決に欠かすことができない技術です。

こうしたデジタル社会の進展の中核を担うのが次世代半導体であり、その製造拠点の整備に向けた国家プロジェクトが、この北海道を舞台として進んでいます。

道としても、製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点の実現はもとより、北海道データセンターパークの創出や、スマート農林水産業の実装化をはじめ、デジタル産業の集積に向けて総力を挙げて取り組み、その効果を全道に波及させていきます。

また、新たな技術のテストフィールドとして、未来に挑戦する人や企業の支援を強化し、宇宙産業をはじめ本道の強みを活かした成長産業の振興に取り組みます。

北海道が持続的に成長していくためには、環境と経済の調和が重要となります。

環境と経済の好循環を創り出すゼロカーボン北海道の実現に向けて、100億円規模の基金を創設し、地域の再生可能エネルギーを活かした、先駆的な取組の輪を広げるとともに、洋上風力発電のサプライチェーン構築や省エネ住宅への支援などを進めます。

広大な森林資源を活用した大規模なカーボンクレジットの取組も動き出しています。農地やブルーカーボンなど、温室

効果ガスの吸収源として大きな可能性を有する農林水産分野での取組を加速していきます。

原子力発電所については、安全性の確保が大前提であり、様々な想定のもとでの訓練の実施など、原子力防災体制の充実、強化に努めます。また、特定放射性廃棄物の最終処分場に関しては、道内に受け入れる意思がないとの考えにより制定された条例を遵守してまいります。

<世界に輝く魅力づくり>

本道が有する自然や食、文化の魅力は、再び成長軌道に乗せていく大きな強みとなります。

世界的な需要回復の波を確実に捉え、「観光立国北海道」を再構築し、観光産業の飛躍に向けて取組を加速していくときです。

9月に開催されるアドベンチャートラベル・ワールドサミットは、コロナ禍でのバーチャル実施に引き続き、アジアで初めての開催となります。

サミットを契機に、アジアはもとより欧米市場といった戦略的なプロモーションなどを通じて、新たなインバウンドの取り込みを進め、体験観光の魅力向上や新しいガイド制度の導入、ワイン・ツーリズムといった観光の高付加価値化や多様なニーズを満たす観光地づくりを進めます。

コロナ後のニーズの変化などを捉え、道産食品の販路と消費の拡大を一層押し進めていきます。どさんこプラザの全国展開に戦略的に取り組みながら、新たに策定する戦略のもとで更なる輸出拡大に向けた取組を推進し、世界に通用するブランド化に取り組みます。

ウポポイへの誘客をはじめ、アイヌ文化の理解促進にも取り組んでいきます。

加えて、縄文世界遺産の拠点機能の実現に向けた取組を進め、北海道遺産や日本遺産など、本道の歴史、文化を守りながら、多様な文化との交流促進などに未来志向で取り組みます。

道立近代美術館をはじめとする知事公館エリアについては、文化や芸術などの発信拠点の整備に向けた活用構想を策定します。

冬季オリンピック・パラリンピックといった国際的な競技大会に向けては、どさんこアスリートの育成強化や、パラスポーツの振興を図るとともに、北海道スポーツみらい会議を中心に、誰もがスポーツに親しむことのできる環境づくりを進めます。

厳しい国際情勢が続いていますが、北方領土の一日も早い返還に向けて、元島民や関係団体の方々と一体となった返還要求運動や効果的な啓発活動を推進するとともに、後継者の育成や隣接地域の振興に取り組みます。

<未来を担う人づくり>

これからの北海道を担う人づくりも重要です。

コロナ禍では、地方への関心の高まりや新しい働き方の進展等、人々の意識などが大きく変化しました。

こうした変化もしっかりと捉え、市町村をはじめ関係者の皆様と一体となった人づくりを進め、医療や福祉人材はもとより、農林水産業や建設、運輸、観光など地域の産業を支える各分野の人材の育成や確保に取り組みます。

オール北海道で移住や就労のプロモーションを実施し、未来に挑戦する若者の支援や、デジタルを活用した学習環境の充実を図るとともに、時代の変化に対応できる力を育てる教育や専門人材の育成、いじめの防止などに取り組みます。

安心して働くことのできる環境も重要です。

女性や高齢者、障がいのある方の活躍の場を創出し、外国人材を円滑に受け入れることのできる環境づくりを進めます。また、テレワークやワークライフバランスを推進し、北海道型ワーケーションの普及を図るなど、住みやすく働きやすい北海道としての環境を創っていきます。

3 地域と進める

最後は、「地域と進める」の視点です。

地域の発展こそが、北海道の発展につながります。そして、地域の皆様の声が未来に進むための力になるのです。

4年前に立ち上げた「ほっかいどう応援団会議」には、企業や団体の方々、個人の皆様から、力強い多くのエールをいただきました。

これまで培ってきたネットワークをより一層拡大し、地域で活躍している地域おこし協力隊の皆様に対する支援を充実させ、応援団第二章として、地域の課題解決に向けた更なる連携事業の創出を図ります。

徹底した現場主義を貫き、「なおみちカフェ」などにより多くの方々と対話を重ねながら、179の市町村とスクラムを組んで、個性あふれる地域づくり、そして、魅力の磨き上げに取り組んでいきます。

こうした取組を、道民の皆様、地域の皆様のご理解とご協力を得ながら、道庁が一丸となって進めていきます。

危機管理事案にも機動的に対応し、重要な政策課題に率先して取り組むとともに、政策提案やナッジの活用など政策力や実行力を高めながら、前例にとらわれずに発想し、行動していく道庁づくりを進めます。

IV むすび

以上、道政執行に臨む私の所信の一端を述べさせていただきました。

我が国が近代化に向かう明治以降、私たちの先人は、最新の知識や技術を積極的に取り入れ、様々な困難に果敢に挑戦し、今日の北海道の基盤を築くとともに、日本の発展にも大きな役割を果たしてきました。

150年ほど前、道内で豊富な石炭資源が見つかり、新たな知見を導入しながら、大規模な近代炭鉱の開発が進められました。

道内での開発が進み、北海道の石炭が貴重な国産エネルギーとして日本各地で用いられるようになり、我が国の近代化の大きな原動力となりました。

当時の厳しい環境は、新たな技術も生み出しました。原野を切り拓き進めた石狩川の治水や、荒波に挑む小樽港の整備で得られた知見は、現在の土木技術の礎となり、社会経済の発展を支え、国民の生命と暮らしを守る役割を担ってきました。

我が国の重要な食料の一つである「じゃがいも」は、明治以降、本道に多くの品種が導入され、冷涼な気候や広大な土地を活かした生産により、全国でも本格的に導入されるようになり、日本の食卓を支える食材となりました。

本道は、これまで、時代の転換期における我が国の成長を後押ししながら、発展をしてきたのです。

令和となった今、私たちは、再び、社会経済の在り方が大きく変わる新たな時代の岐路に立ち、北海道のポテンシャルに注目が集まる好機を迎えています。

北海道が日本の発展をリードし、世界の中で輝いていけるよう、先人のフロンティア精神を受け継ぐ私たちが、力を合わせ、様々な困難に向き合い、果敢に挑戦していかなければなりません。

多くの方々の情熱、そして行動力とともに、私自身、持つ力を最大限尽くし、道民の皆様の命と健康、暮らしを守り抜き、そして北海道の確かな未来を創ってまいります。

^{ひた}直向きに、^{ひた}直向きに北海道を前に進めてまいる決意です。

道民の皆様、議員の皆様の一層のご理解とご協力を心より
お願い申し上げます。